

令和6年2月19日

## 北海道大学 第4期中期目標・中期計画の実施状況に対する意見書

ステークホルダー 座長 三上 隆

(旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部 学長)

### (総評)

北海道大学の第4期中期目標（令和4～9年度）における中期計画の令和4年度の実施状況に関する自己評価結果について、学外のステークホルダーとして3名（別紙参照）により確認した。

文部科学省に提出した18の中期目標の達成に向け、33の中期計画すべてにおいて、各計画に設定された評価指標が、達成水準を満たす又は大きく上回るが見込まれる状況であり、THEインパクトランキング2022で世界総合10位、SDGs目標2の「飢餓をゼロに」で世界1位を獲得するなど北海道大学の特色を生かしたSDGsに関連する取組や、コンピテンスに基づく評価制度の構築など高度な専門性を有し、グローバル社会や地域社会で活躍できる博士人材を育成する取組、アンビシャステニュアトラック制度等による国内外の優秀な若手研究者の獲得を推進する取組、多角的に経営的収入の増加を図り持続的発展を見据えた財政運営の確立を目指した取組等が実施されている。

以上のことから、目標の達成に向け、全体を通じて概ね適切に取組が実施されているものと評価できる。

北海道大学が掲げる4つの基本理念に基づき、総長のリーダーシップのもと、教職員が一体となり大学のビジョンを共有し、持続可能なウェルビーイング社会の実現のために、教育・研究・社会共創をバランス良く推進いただきたい。

各計画の主な意見については、以下のとおりである。各ステークホルダーからの意見を踏まえて、北海道大学がさらなる教育研究の充実を図ることに期待したい。

### (主な意見) [i] 内は中期計画番号

- ・【01-1】変化が激しく、先行き不透明な時代にあつて、実践型アントレプレナー教育の実施は意義がある。学生発スタートアップへの積極的な支援等が、北大発のスタートアップ企業の設立に結実するなど、目標値達成に向け順調にスタートしており、評価指標の達成状況 ii は妥当と判断する。
- ・【01-2】我が国の大きな課題の1つである地域問題の解決に向けて、北海道の産業の発展や文化の継承・進化のために、地域のトップ大学として北海道大学の役割は大きいものとする。令和4年度には、地域中核大学イノベーション創出環境強化事業で全申請大学中トップの評価により3億円の配分額を獲得、地域水産業共創センターにおいて道内外の企業や金融機関、道南地域の自治体等から数多くの面談および相談を受け付けるなど、さらなる活動を展開しており、評価指標の達成状況 iii は妥当と判断する。

- ・【02-1】国際性を有した世界に伍する研究拠点の構築を目指す大学にとって、国際共著論文数は重要な指標と考える。指標の達成に向け、外部資金獲得や研究環境改善に向けた取組と連動し効率的かつ戦略的に進められているといえる。より高い水準の実現を目指し、引き続き計画を実施いただきたい。
- ・【02-2】北海道大学の博士課程修了者から優秀な研究者を教員として採用するアンビシャス特別助教制度を創設し、令和4年度に目標値の2割を超え採用しており順調なスタートといえる。また、研究分野・国籍・性別について多様な人材の採用を審査方針とするなど、ダイバーシティ&インクルージョン推進の取組が実施されている。令和元年から開始しているアンビシャステニユアトラック制度に基づくアンビシャス准教授の選考においては、研究IRを活用し有望な若手准教授を選出するなど、興味深い取組が実施されている。
- ・【04-1】博士号取得者の活躍の場は多様化しており、一人でも多くの優秀な人材を輩出するには、大学院と産業界が連携し、多くの学生が自身の望むキャリアを築いていける体制が必要である。そのためには、社会の変化に伴う学生定員の最適化を図るための組織改革は必須である。
- ・【04-1】高度な専門性を磨くとともに多様な学びを体得し、グローバル社会や地域社会で活躍できる博士人材を数多く育成するため、企業への実態調査を踏まえ、企業のニーズに即した人材育成をするためのインターンシップの実施方法の検討を行うとともに、学内に博士修了後の研究職ポストを一定数確保するなど、研究者を選択した際に将来のビジョンが描ける環境整備が行われている。また、学士から博士課程までの一貫したキャリア教育の実施に向けた構想が検討されている。目標の達成に向け引き続き取組を推進いただきたい。
- ・【05-1】教学アセスメントに基づき、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について、教育の質の点検と改善を絶えず行うために、大学全体（機関）レベル、部局レベルにおいて、自己点検・評価が実施されており評価できる。また、コンピテンスに基づく授業評価と達成度評価の導入は、意欲的な試みであり評価できる。
- ・【05-1】教学アセスメントを推進する中で、時代に応じたアドミッション・ポリシーの評価・改善を定期的実施し、高等学校との的確な接続に努めていただきたい。また、令和8年度から開始予定の「次世代教養教育」による教養教育の改革や、新渡戸カレッジによる「国際性の涵養」等の実現、「Society5.0を牽引する人材育成」のためのDX博士人材フェロシップ制度の推進を期待する。
- ・【05-2】フロンティア入試は北海道大学の特色ある入試制度である。入試結果の分析・検証、入学生の追跡調査及び高校教員との意見交換等の取組を引き続き推進し、その結果のアドミッション・ポリシーへの反映等により、さらなる入学者選抜の改善につなげていただきたい。また、多様な入試制度の一つとして地域枠を設置する等、地域課題を解決できる人材の育成にも期待したい。
- ・【08-1】指標に掲げる博士課程の標準修業年限内修了率の20%以上の向上は「意欲的な評価指標」として国立大学法人評価委員会から指定されたものであり、指標達成に向けて社会実装力の養成、学位授与へと導く教育のプロセスの明確化等の効果を検証し、より一層取組を推進いただきたい。
- ・【11-1】リカレント教育は、人口減少時代において国力を維持するため一人ひとりの能力を高めることや、地方自治体における地域問題に取り組む人材の能力開発に当たり有用であり、特に北海道千歳市への「ラピダス」の最先端半導体工場の立地に伴う地域産業界や地方自治体との連携など今後ますます重要となる。このことから、実効性あるリカレント教育プログラムの構築・実施に向けスピード感を持った取組の推進を期待する。

- ・【14-1】研究 IR 分析や世界の科学イノベーション動向などにに基づき、重点研究領域の研究テーマを「高機能な次世代有機触媒の開発」として選定し、概算要求事業「北大グランドチャレンジ研究戦略の実現～未来社会を開拓する連携研究プラットフォーム構想～」の申請を行い、予算獲得に至った点は高く評価でき、評価指標の達成状況iiiは妥当と判断できる。
- ・【15-1】北海道に関連する多岐にわたるテーマを設定の上、諸課題の解決に資する応用研究・開発研究を進める Community により、受託・共同研究に展開するユニークな取組であり、令和4年度の大型受託・共同研究の獲得は当初計画 50 件を上回る 63 件であり、順調なスタートであると考えられる。
- ・【16-1】変化が激しく、先行き不透明で将来の予測が困難な「VUCA」の時代では、トランスファブルスキルを身に付けることが大切であり、同スキルを修得することの意義・必要性を啓発する取組等を継続することにより、学生の能力開発プログラムへの参加を促し、目標値達成に止まらず、参加割合を向上いただきたい。
- ・【20-2】医科臨床研修指導医及び指導歯科医数の増加、診療を通じた研修医及び専攻医への指導に加え、高校生メディカル講座等を継続して実施し、高等学校との接続により社会への貢献等に関する意識づけを図るなど、高度な知識・技能に加えて「人格」を兼ね備えた持続可能な地域医療を牽引する専門的医療人の育成に期待したい。
- ・【26-1】SDGs に係る The インパクトランキング 2022 において高い評価を得ており、SDGs に関連する特徴的な取組をシンポジウム、広報雑誌等の様々な形で国内外に発信していることも評価できることから、評価指標の達成状況iiiは妥当と判断できる。今後も強みを活かして、目標値達成に止まらず、より多くの多種多様なステークホルダーに情報発信することで、教育研究成果が社会に与えるインパクトの強化に貢献いただきたい。
- ・【26-2】北海道大学が SDGs に関心を持つ学生を輩出し続けることは、非常に意義あることと考えられ、令和6年度からの SDGs に関する授業の実施に向けて、令和4年度から「国際 SDGs 入門」、「世界的な課題を知る(北大 SDGs 概要)」等の授業や講義を試行的に展開したことは評価できる。
- ・【26-3】カーボンニュートラルを実現するためには様々な課題がある中、北海道大学の所有する土地、建物などをカーボンニュートラル達成に貢献する研究を社会実装するための実証実験の場として提供することは、意欲的な取組である。時間を要する取組になると思われるため、着実な計画の遂行を期待する。
- ・【21-2】総長による法人経営状況を常に把握し、ガバナンス体制の強化に繋げるため、総長選考・監察会議において毎年の業務執行状況を確認し、その結果に基づき業績評価を実施することは評価できる。
- ・【22-1】北海道大学固有の歴史的建造物等の整備と新たな社会ニーズに適応した教育研究整備を同時に取り組む意欲的な計画であり、令和4年度の国際化学反応創成拠点 (ICReDD 拠点棟) 整備に続き、今後の計画の遂行を期待する。
- ・【23-1】ファンドレイザー等による寄附募集活動の展開により、北大フロンティア基金を増加させ、教育研究が一層充実されることを期待する。
- ・【24-2】北海道大学の取組を広く社会に知ってもらうために、記者会見、ホームページや SNS、オープンコースウェア等、世代にもあわせて様々な手法により、多くの情報を発信していることは高く評価できる。特に、若手社会人にも興味・関心を持ってもらうため、世代の近い学生が参画した広報活動を実施していることは評価できる。

※評価指標の達成状況

iii	達成水準を大きく上回ることが見込まれる
ii	達成水準を満たすことが見込まれる
i	達成水準を満たさないことが見込まれる

(ステークホルダー構成員)

座長 三上 隆	旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部 学長
林 美香子	キャスター 北海道大学大学院農学研究院客員教授 慶應義塾大学大学院 SDM 研究所顧問
宮澤 一	札幌南高等学校校長 道高校協会会長